

霞城のサクラ (かじょうのさくら)

山形市霞城町 1

(案内略図)



山形市の霞城公園には、1906年に日露戦争凱旋記念と戦友供養の為、露城将士全員が植樹した千二百本のソメイヨシノをはじめとする、約千五百本のサクラがあり、春ともなれば多くの花見客で賑わう花見の名所となっている。これらのサクラに混じって樹齢六百年を越すものと推定される老木がある。樹種はエドヒガンで、高さ11.5m、根元周り7.8mあり、主幹は甚しく枯損して内部は全く失われ、二つに分裂して内部の一部が残っているだけである。このサクラは、この地にはじめて城が築かれた当時に植えられたもののようで、昭和41年8月6日に市指定天然記念物に指定されている。

〔山形県森林協会〕



山形市指定天然記念物 (昭和四一年八月廿日指定)

霞城のサクラ

樹種はエドヒガン。樹は城跡サクラという。かつてあって、根元の周りが七、八メートル。樹幹は六〇年を越すものと推定される。

主幹は甚しく枯損して内部は全く失われ、二つに分裂して内部の一部が残っているだけである。しかし、これからは出てきた大枝は、樹幹をよりかまえて、高さ一、二メートル、枝張りは一メートルほど、いたが、昭和四一年一月、枯死のため、南方の大枝が折れ、昭和四四年三月二日の強風により、北側の木は、この日、吹き折られ、このサクラは、この地に、はじめて、城が築かれた当時に植えられた、血涙のサクラとして、同様に、樹齢もまた同じくするものと推定される。

昭和四四年四月
山形市教育委員会

【森林やまがた115号(2008年4月)記載】